

蟹江町歴史民俗資料館 おうちミュージアム

第11回 昔の米づくりと農具のうぐ

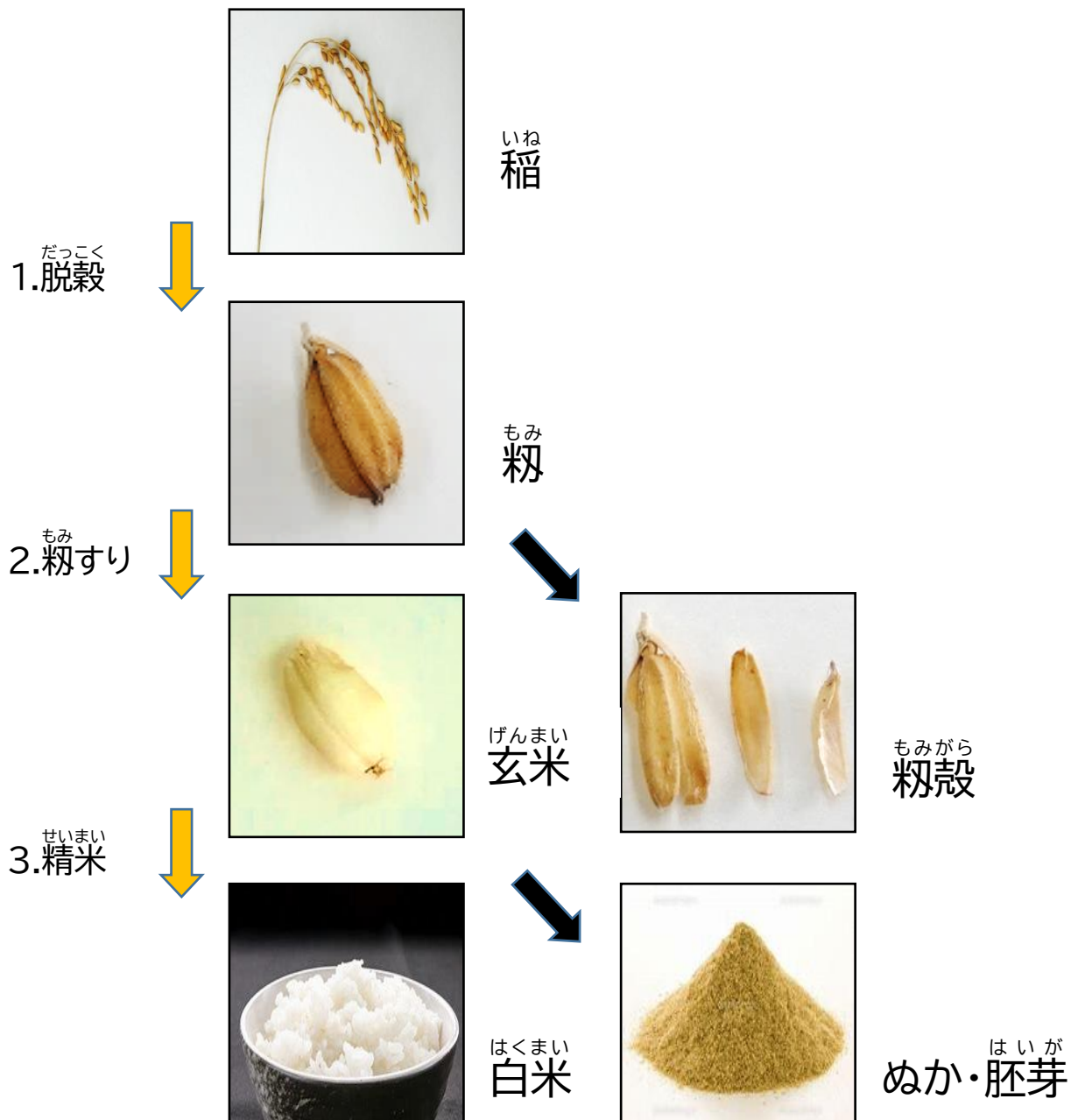


今回のおうちミュージアムでは、蟹江町で行われていた昔の米づくりと農具のうぐについて、蟹江町出身の画家・佐藤百秋しゅつしん が か さとうひやくしゅうさんが描いた絵えがとともに紹介しょうかいします。

# ① 稲から白米になるまで

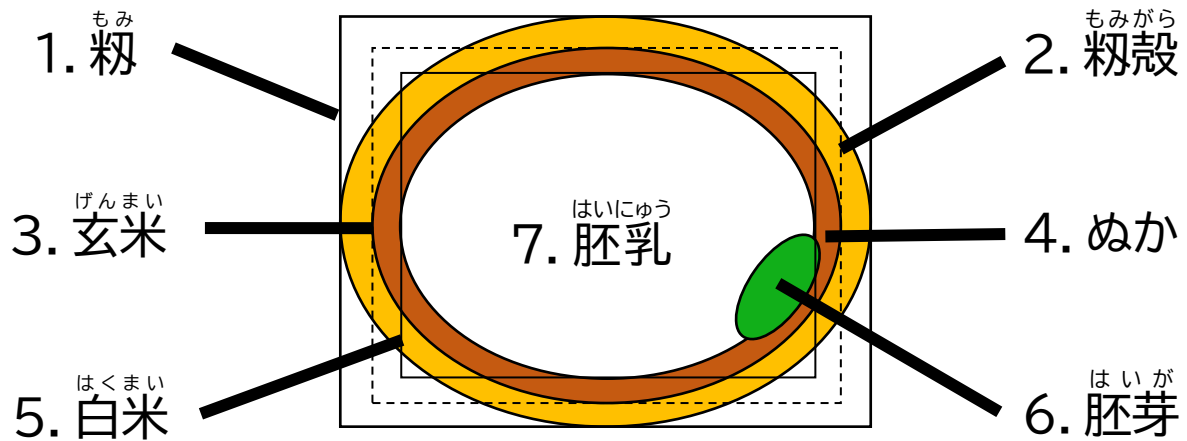
私たちが食べている米は、田んぼで作られる稲の実です。この実を「籾」といいます。籾は黄色い殻に包まれているため、このままでは食べられません。米を食べるためには、稲を収穫してからいくつかの作業を行います。

1. 脱穀 … 収穫した稲から「籾」を取り分けます。
2. 籾すり … 籾を包む殻を取り除いて「玄米」と「籾殻」に分けます。玄米は籾殻を取り除いた米のことで、「ぬか」に包まれています。
3. 精米 … 玄米から「ぬか」や「胚芽」を取り除きます。



## ② 米の部位について

### 【米の断面図】

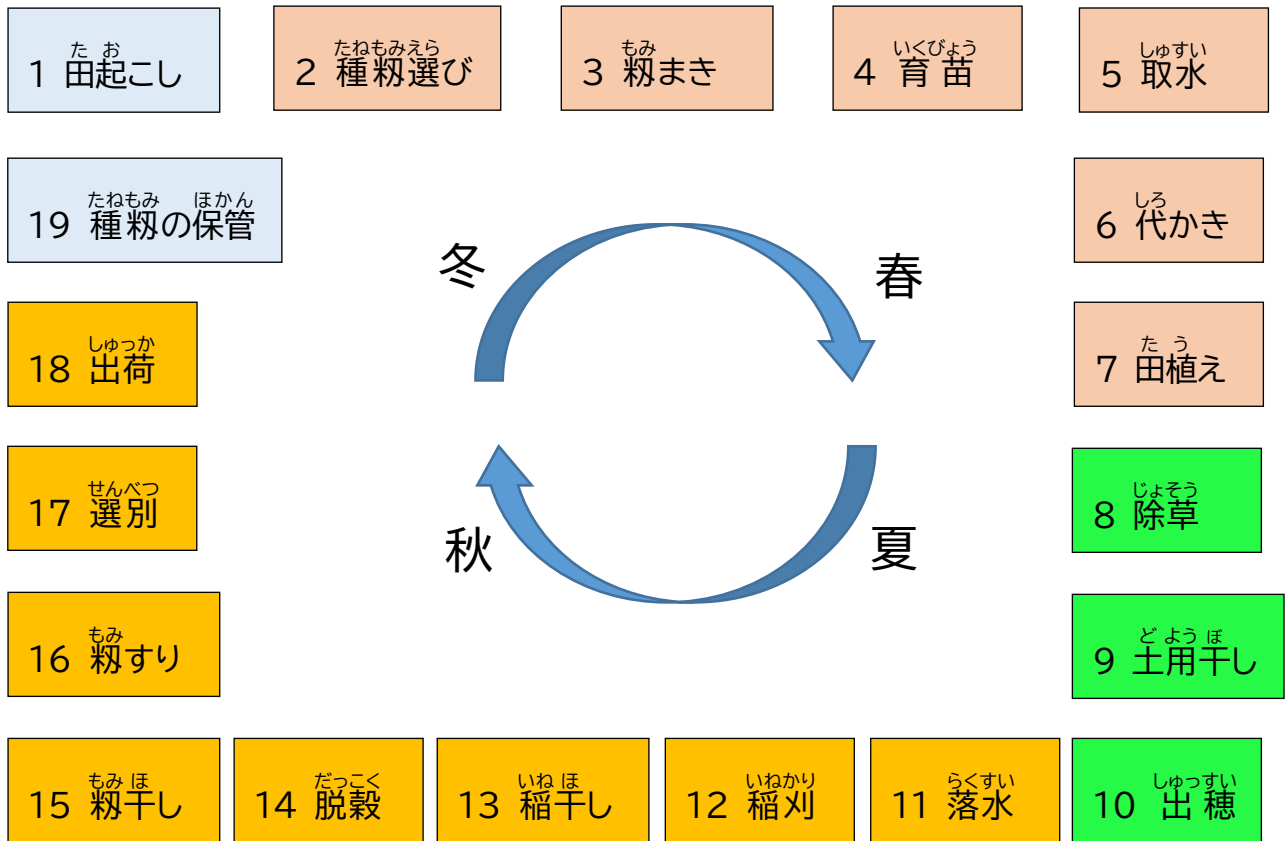


### 【部位の呼び名】

1. 籾 … 黄色い殻に包まれている米です。
2. 籾殻 … 玄米をおおっている殻です。
3. 玄米 … 籾から籾殻を取り除いた米です。「むか」におおわれています。
4. むか … たくさんの栄養が含まれています。
5. 白米 … 私たちがいつも食べている白い米です。
6. 胚芽 … 植えたときに、芽や根になります。
7. 胚乳 … 植えたときに、成長するためのエネルギーがためてあります。

### ③ 米づくりのサイクル

米づくりのサイクルは、一年間でおおよそ19の<sup>てじゆん</sup>手順に分けられます。



### ④ 米づくりの<sup>てじゆん</sup>手順と道具(その1)

1 田起こし(田んぼの土を<sup>たがや</sup>耕します。)

**備中鋤**(土を<sup>たがや</sup>耕す道具) 柄の長さ 約120 cm、刃先<sup>はさき</sup> 25 cm  
 刃先が2~5本に分かれており、土が付きにくくなっています。蟹江町の田んぼは水分が多く土が重たいので、**備中鋤**がよく使われました。



**犁**(土を<sup>たがや</sup>耕す道具) 高さ 約120 cm、長さ 約130 cm  
 犁は重たいため、牛や馬が引<sup>ひ</sup>張<sup>ば</sup>る力を使います。人が<sup>たがや</sup>耕すよりもずっと<sup>こうりつ</sup>効率よく土を耕すことができました。





2 <sup>たねもみえら</sup>種籾選び(田んぼに植えるための「種籾」を選びます。)

3 <sup>もみ たねもみ なえしろ</sup>籾まき(種籾を苗代(苗を育てるための田んぼ)にまきます。)

4 <sup>いくびょう たねもみ</sup>育苗(種籾から芽が出て、苗になるまで育てます。)

5 <sup>しゅすい</sup>取水(田んぼに水を入れます。)



左が「<sup>ふみぐるま</sup>踏車」、右が「<sup>と おけ</sup>取り桶」という道具です。どちらも田んぼに水を入れるために使われました。

6 <sup>しろ</sup>代かき(水を入れた田んぼの土を<sup>たい</sup>平らにならします。)



牛を使って田んぼを<sup>たい</sup>平らにならしたり、<sup>くわ たがや</sup>鋤で耕したりしています。奥の人は、田んぼに<sup>ひりょう</sup>肥料をまいています。

コマザラ(田んぼの土をならす道具) <sup>え</sup>柄の長さ 約 210 cm、<sup>はさき</sup>刃先 8cm

土が固いままだと<sup>たう</sup>田植えができません。田んぼに水を入れたあと、土の上で<sup>なんど</sup>何度もコマザラを押し引きしてすりならし、田植えをしやすくしました。



コマザラ

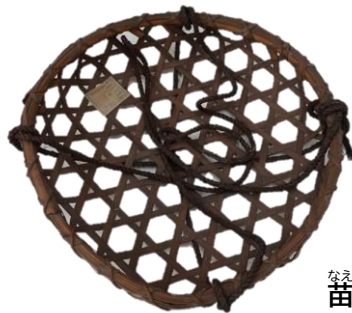
## 7 田植え(育てた苗を田んぼに植えます。)

苗カゴ(苗を運ぶ道具) 大きさ 約55cm、深さ 約16cm

苗代で育てられた苗は、苗カゴを使って田んぼまで運びました。苗には水や泥が付いており重いため、少しでも軽く運べるように水を切るための隙間があります。

天秤棒(物を運ぶ道具) 長さ 約165cm、幅 約7cm

「担い棒」ともいいます。棒の両端や中心にいろいろな物を吊るし、肩に担いで運びました。苗カゴなど、さまざまな物と組み合わせて使いました。



苗カゴ



天秤棒



中央の人は、苗カゴと天秤棒を使って苗を運んでいます。田植をする人に、タイミングよく苗を渡しました。植えられた苗が、きれいに並んでいるのがわかります。

正条植え(苗の縦と横の間隔をそろえる田植えの方法)

今の田んぼでは、苗の縦と横の間隔をきれいにそろえて植えています。この植え方を「正条植え」といいます。こうすることで除草のときに動きやすくなるほか、稲の密を避けて害虫や病気の被害を抑えやすくする、日光がむらなく当たるため稲が成長しやすくなるなど、多くのメリットがあります。

田植を済ませても、米づくりはまだまだ終わりません！

続きは、おうちミュージアム 第12回「米づくりと昔の農具・その2」をご覧ください！